

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

赤十字血液センター合同社屋

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進								
1.1 建物の熱負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.13	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御
開口部(窓面)をしぼった計画、断熱により負荷を抑えた。	0.0	0.00						
	5.0	0.87	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制		
小計	4.7	0.18						
1.2 自然エネルギーの利用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用	2.1	自然エネルギーの直接利用
トップライトを部分的に採用している。	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	自然エネルギー利用	2.2	自然エネルギーの変換利用
小計	3.0	0.11						
1.3 設備システムの高効率化								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化		
居室の照明器具はHf蛍光灯を主体に計画している。 全熱交換器の採用。								
小計	4.0	0.16						
1.4 設備システムの効率的運用								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制
小計	3.0	0.11						
1.5 資源・マテリアル対策								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水
節水型器具を採用した。 雨水を便所の洗浄水に利用。 内装材に地場産の間伐材を使用。	4.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用
	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用
	4.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用
	3.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用
	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材
	5.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み
小計	3.6	0.31						
1.6 ライフサイクルCO2排出率								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	4.5	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮		
建物の熱負荷抑制、設備の高効率化によるCO2発生量の抑制。								
小計	4.5	0.13						
1.「地球温暖化対策」の推進の評価								
	3.9	0.71						
■2.「ヒートアイランド対策」の推進								
2.1 温熱環境の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出		
緑地の確保、排熱場所の考慮による、暑熱環境を緩和。	3.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善
小計	2.5	0.97						
2.2 交通負荷抑制								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	5.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制
利用者用の自転車置場、駐車スペース及び荷捌き用の駐車スペースを適切に確保。								
小計	5.0	0.03						
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価								
	2.6	0.18						
■3.「長寿命化対策」の推進								
3.1 耐用性の向上								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数
必要更新間隔の長い配管材料の採用。	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	4.0	0.06	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数
小計	3.1	0.70						
3.2 設備の更新性								
(コメント) ※設計の計画段階に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性
小計	3.0	0.30						
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)								
	3.0	0.10						
■重点項目の総平均(上記3項目)				3.6				